

慶應医学会 ニュースレター

~The Keio Medical Society~

Vol. 33 2025.3.

2024年11月30日開催 第104回慶應医学会総会・シンポジウムご報告

<総会> (※開催当時の役職名にて記載しております)

2024年11月30日(土)に慶應医学会総会を北里講堂でハイブリッド形式にて開催いたしました。総会では、金井隆典会長による物故者への黙祷より総会議事に進み、会員の皆様方より承認をいただきました。また併せて、野村達次賞授与式も行われました。以下に主な内容をご報告いたします。

【総会議事次第】

会長挨拶

(金井隆典会長)

2023年総務報告・2024年中間総務報告

(中川種昭総務担当理事)

2023年決算報告・2024年中間決算報告

(金井隆典会長)

野村達次賞について

(金井隆典会長)

2025年予算(案)・2025年事業計画(案)報告

(金井隆典会長)

その他

(金井隆典会長)

野村達次賞について

(柚崎通介野村達次賞審査委員長)

・2025年予算(案)、2025年事業計画(案)

2025年の予算(案)として、①「生涯教育研修セミナー」の協賛 ②『KJM』誌発刊費用補助および投稿補助 ③会員向け「学会ニュースレター」の発行 ④野村達次賞賞金 ⑤国際メディカルアライアンスジョイントサマースクール補助費 ⑥アカデミックリサーチオーガニゼーション整備へ寄附を継続、そして、若手研究者への支援として慶應医学部主催の「健康慶應医療ベンチャー大賞」および慶應医学部大学院生を対象として開催する学内研究発表「医学研究科リトリート」への支援を予算に計上することが承認されました。

・野村達次賞について

厳正なる審査の結果、11回受賞者は掛川渉准教授(慶應義塾大学医学部 生理学教室)ならびに籠谷勇紀教授(慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所がん免疫研究部門)に決定いたしました。授与式では賞状と目録が授与されました。



<シンポジウム『 mRNA ワクチン 』>

慶應医学会総会、野村達次賞授与式の後、慶應義塾大学医学部 分子生物学教室の塩見春彦教授、臨床検査医学教室の涌井昌俊准教授をコーディネーターとして、「mRNA ワクチン」をテーマに、北里講堂にてシンポジウムを開催いたしました。学内外より4名の先生方を講師としてお招きし、3時間超に亘りご講演いただきました。来場者数は60名を超え、質疑応答も活発に行われ、盛況のうちに終了いたしました。

【プログラム】

I. 『自己複製 mRNA は、次世代のワクチンとなりうるか?』

洪 実 (慶應義塾大学 名誉教授/Elixirgen Therapeutics, Inc. Chief Scientific Officer)

II. 『 COVID-19 mRNA ワクチン被接種者における免疫獲得に関する解析』

涌井 昌俊 (慶應義塾大学医学部 臨床検査医学教室 准教授)

III. 『 COVID-19 mRNA ワクチン接種による免疫応答の年齢差・個人差の理解』

濱崎 洋子 (京都大学 iPS 細胞研究所 未来生命科学開拓部門 教授)

IV. 『新規 LNP-mRNA ワクチンプラットフォーム技術による国産ワクチンイノベーション』

武下 文彦 (第一三共株式会社 研究開発本部研究統括部ワクチン研究所 所長)

V. 『免疫記憶～自然免疫記憶と神経・免疫・代謝連関の話題を含めて』

熊ノ郷 淳 (大阪大学大学院医学系研究科 教授)

コーディネートをお願いいたしました涌井昌俊准教授より、総評をご寄稿いただきましたので以下に紹介させていただきます。

【第104回慶應医学会総会シンポジウム開催「mRNA ワクチン」】

慶應義塾大学医学部 臨床検査医学教室 准教授 涌井昌俊



塩見春彦先生

涌井昌俊先生

本年度の第104回慶應医学会総会・シンポジウムが「mRNA ワクチン」をテーマとして、2024年11月30日(土)に信濃町キャンパス北里講堂で開催されました。

本シンポジウムでは、未曾有の危機的新興感染症として脅威をふるった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)との闘いに大きく貢献したmRNAワクチンの研究に焦点を当てて、第一線で活躍されている方々をお招きしました。今回は慶應義塾大学医学部

分子生物学教室の塩見春彦教授と臨床検査医学教室の涌井昌俊がコーディネーター・司会を務めました。前半では塩見教授によるイントロダクションに続き、Elixirgen Therapeutics, Inc.の洪実名誉教授が、自身の研究開発の経験と知見を踏まえて次世代ワクチンとしての自己複製mRNAの可能性について論じ、T細胞免疫獲得効果が期待される側面に言及されました。次に涌井が、信濃町キャンパスの教職員を対象に現在も続けているCOVID-19 mRNAワクチン被接種者における免疫獲得に関する研究の成果を紹介しつつ、検査現場のレベルで行え



洪 実先生



涌井昌俊先生

部ワクチン研究所の武下文彦所長から、mRNAワクチンの歴史的意義に触れた上で新規LNP-mRNAワクチンプラットフォーム技術がもたらす国産ワクチンイノベーションについて、開発研究の進捗を交えてお話いただきました。最後に、大阪大学大学院医学系研究科の熊ノ郷淳教授から、免疫応答の全体像について概説いただいた上で、自身の研究成果を交えてワ



熊ノ郷淳先生

クチンにおける自然免疫記憶の重要性に

ついて論じていただきました。それぞれの発表に対して活発な質疑応答が行われ、閉会となりました。

COVID-19のみならず、他の新興・再興感染症やがんをはじめ様々な疾患への応用と実践が期待されている mRNA ワクチンについて、mRNA 創薬とワクチン免疫の2つの視点から議論を深め、さらなる研究展開を予想させる貴重なシンポジウムになったと思います。参加された方々に深く感謝を申し上げます。

るワクチン免疫評価の現状と課題についてお話致しました。京都大学 iPS細胞研究所 未来生命科学開拓部門の濱崎洋子教授からは、免疫応答の年齢差・個人差という視点からCOVID-19 mRNAワクチン被接種者を対象に展開している研究の成果を紹介いただき、高齢者のT細胞免疫の特性について論じていただきました。

後半では、第一三共株式会社 研究開発本部研究統括



濱崎洋子先生



武下文彦先生

慶應医学会ホームページについて

慶應医学会ホームページ（URL：<http://www.keiomedsoc.org/>）では例会開催情報や例会講演の抄録、医学部に新しく就任された教授・准教授・講師の先生よりご寄稿いただいたご挨拶や抱負なども掲載いたしておりますので、是非一度ご利用ください。

2025年3月27日開催 慶應医学会理事会・評議員会について

2025年3月27日（木）に、WEBにて、慶應医学会理事会・評議員会を開催いたしました。理事会・評議員会においては、各担当理事により2024年の総務報告、会計報告が行われました。その詳細につきましては、2025年11月に開催予定の慶應医学会総会においてご報告させていただく予定です。

2025年11月開催 慶應医学会シンポジウムのご案内

第105回慶應医学会総会シンポジウムは2025年11月に開催する予定となっております。総会シンポジウムの詳細につきましては、慶應医学会ホームページおよび10月に発行予定の次号ニュースレター等にてご案内させていただきます。

事務局より

第33号となる本号は、昨年11月に開催した慶應医学会総会・シンポジウムを中心にご案内をさせていただきます。

ニュースレターに関するご意見・ご要望などがございましたら、事務局にお問い合わせの程よろしくお願いいたします。(事務局)

発行：慶應医学会 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35

TEL：03-3359-0052 FAX：03-5361-7091 E-mail：keio-igakkai@imic.or.jp